



津田左右吉物語⑥

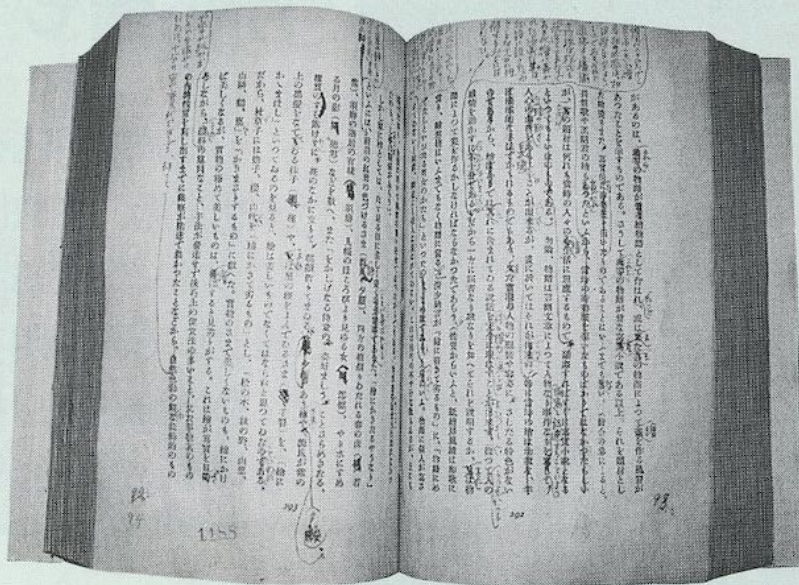
坪内逍遙の序を付して著書発刊

白鳥庫吉博士の下で左右吉は、『神代史の新しい研究』『朝鮮歴史地理』第1巻および第2巻を早くも大正2年に発行して、研究員としての成果を発表しました。以後毎年のように、晩年に至るまで膨大な量の単行本や研究論文の発表や刊行をしました。

坪内逍遙は、左右吉の最初の著書『神代史の新しき研究』を読み、その内容の斬新さに

注目。そして大正5年に左右吉が刊行した『文学に現はれたる我が国民思想の研究—貴族文学の時代』では序を書いて、左右吉の本格的な研究の紹介をしています。

その序の中で逍遙は「君（左右吉）は其實、私の善く知っているべき筈の縁故関係の人であるが…」と書き、郷土の後輩であり、早稲田の前身の卒業生であると述べ、特に研究の斬新さをほめたたえました。



左右吉の著書『文学に現はれたる我が国民思想の研究—貴族文学の時代』